

第3回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会

平成20年6月26日

中国運輸局では、中国地方における公共交通サービスの維持・活性化や運輸関連施設のバリアフリー化、地球温暖化対策、さらには観光振興等交通・観光分野の様々な課題に的確に対応するため、平成16年8月31日に、中国地方交通審議会から、平成27年(2015年)を目標年次とした中国地方の公共交通政策及び観光政策の基本的方向性についての答申「21世紀初頭における中国地方の公共交通サービスと観光振興のあり方について」を頂いているところです。

この答申に示された事項の実現を目指し、国の行政機関、地方自治体、交通事業者、地域住民等関係者において、それぞれの立場から、答申の内容に沿った様々な取り組みがなされているところですが、答申のフォローアップを行い、ベストプラクティスの他地域への広がりを図るため、平成18年度から「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会を開催しています。

今年度においても、広島大学大学院藤原章正教授を部会長として、第3回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会を6月26日に開催しました。

今回の部会では、まず、中国運輸局から、平成21年に目標期間の中間地点を迎える答申について、目標期間の後半期における答申の内容の具現化をより一層着実に進めていくため、答申の各項目に対する進捗状況を踏まえた総点検を行ない、その結果について報告しました。

その後、東広島市、山口市、廿日市市及びPASPY運営協議会の関係者より、公共交通の活性化あるいは観光振興において、自らが取り組んだ事例について報告等を行っていただきました。

公共交通の活性化といたしまして、「市町村合併等を契機とした交通体系の見直し」として、東広島市から合併後の市内交通不便地区において取り組んだ、学校教育等と連携した地域で支える新たな公共交通システムの構築について、山口市から広域合併により二極化した山口・小郡を結ぶ都市核間の交通体系の見直しについて、それぞれ自治体の取り組みを報告していただきました。

次に、「広島県交通ICカード乗車券(PASPY)の導入」として、PASPY運営協議会から、本年1月23日サービス開始されたICカード乗車券「PASPY」の導入までの経緯と今後の導入計画について報告していただきました。

また、「中国地方の観光振興策」として、廿日市市から観光ルネサンス事業として取り組んだ、外国人観光客を対象とした宮島における日本文化体験事業について報告していただきました。

中国運輸局と致しましては、今回のフォローアップ結果を今後の施策の展開に反映させ、国民生活や地域社会に密着した施策展開を図り、交通運輸・観光の分野から中国地方の活力再生・発展に努めていくこととしています。

(企画観光部交通企画課)



藤原部会長挨拶



取組み事例報告

(第3回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会(平成20年6月26日))

[議事概要\(次ページ記載\)](#)

第3回「中国地方交通審議会答申」フォローアップ部会議事概要

日 時：平成20年6月26日（木）13時30分～15時30分

場 所：ホテルグランヴィア広島 4階「悠久の間」

出席委員：藤原部会長、清水委員、河村委員、久保委員、宮田委員、川島委員、木下委員、山田委員、大前委員、今中委員（佐藤総務企画課長代理）、金原委員、山根委員、岩本委員、柳樂委員、笹倉委員、信太委員、式部委員（田坂広域調整第二課課長補佐）、妹尾委員（中山地域振興部長）、青木委員（高山交通政策課長）、三宅委員（古瀬交通対策課主任）、福田委員（小阪交通対策課主事）、金澤委員（山崎交通運輸対策室主査）、高山委員（河田都市交通部公共交通計画対策課長）、土居委員

（ ）は代理出席者

運 輸 局：石津中国運輸局長、丸山中国運輸局次長、池田企画観光部長、余米交通環境部長他

1. 開 会

2. 中国運輸局長挨拶

3. 部会長挨拶

4. 議 題

（1）答申の内容の具現化に向けた取組み状況の総点検について

事務局（企画観光部交通企画課長）から「資料2-1」、「資料2-2」により説明

質疑応答

藤原部会長

総点検における各項目ごとの進捗状況の判定の考え方について教えていただきたいのですが、「 」は単なるやっているかどうかの判定なのか、それとも、成果があがったかどうかまでを含めた判定なのか。

交通企画課長

今回の総点検においては、数多くある項目の中で全く取り組まれていない項目が無いかを点検することにより、そういった項目があれば、何故今まで取り組まれなかったかを検証し、軌道修正し、後半の施策につなげていくことを目的にしたもので、成果についてまで踏み込まず、まず、全ての項目に対して取り組まれているかどうかを点検しました。同じ「 」判定にあっても成果の上がったもの、中途段階のもの

のもあり、今後そういったものを重点的に取り組み、後半の取り組みにつなげていくよう考えております。

青木委員代理 高山交通政策課長

鳥取県の取り組みといたしまして、パンフレットを配布させていただいております、バスネットシステムについてご紹介させていただきます。

これはパソコンや携帯電話から手軽に利用できます、バスの経路及び時刻表の検索システムで、出発・目的地を選んでいただくと、最寄りのバス停、ルート、リアルタイムの時刻表が瞬時に検索できるシステムとなっています。鳥取県全域で検索可能です。

藤原部会長

海外からも日本の情報提供システムに対する相談を受けており、非常に関心をもっておられます。こういった情報検索システムが鳥取県のみならず、境界を越えて、他の都市或いは国境を越えて情報システムが共通化される時代が近い将来には来ると思っています。そういう意味でも鳥取県の取り組みは非常に参考になると思います。

(2) 市町村合併等を契機とした交通体系の見直しについて

学校教育等と連携した地域で支える持続可能な地域公共交通の構築について

広島県東広島市企画部企画課 大下主任から「資料3」により報告

【報告概要】

・平成17年2月に1市5町で広域合併をおこなった東広島市において、交通空白地帯の福富地区で持続可能な地域公共交通の導入を地域住民と協働で取り組むとともに学校教育と連携して利用意識の啓発をおこなった。

・地域公共交通“ふくふくしゃくなげ号”の試験運行を2月～3月の2ヶ月間行い、4月から本格運行をはじめた。

運行形態：路線定期運行（フリー乗降区間あり）

運行日数：毎週火・金曜日

運賃：1乗車あたり300円（高齢者・小学生以下の割引あり）

・プロジェクトを進めていく上で、地域住民との協働と学校教育との連携に重点をおき取り組んだ。

地域住民と協働での取り組み成果

）地域公共交通に対する意識向上と地域で核になる人材の発掘

）地域との連携・協働による地域公共交通の導入・見直しの基礎づくり

）地域で支える持続可能な地域公共交通のモデルケースの構築

学校教育との連携

・将来の地域を担う児童の意識育成と地域への波及効果を目指し、福富町内の小学4年生（2校・計37名）を対象に総合的な学習の時間で「地域公共交通の導入」として計5回実施。

-) 高齢者の疑似体験
-) 高齢者へのインタビューを行い、高齢者の移動実態とニーズを把握
-) 地域公共交通の名称を検討し“ふくふくしゃくなげ号”に決定
-) 試乗による運行サービスの理解と公共交通の認識
-) 地域住民へ向けた学習効果の発表と2月1日の出発式への参加
- ・学習をおこなったことで、児童及び保護者の地域公共交通に対する関心が高まり、地域住民や地域組織との交流が図られた。
- ・今後も関係者が一体となって検証をおこない、持続可能な地域公共交通に向けて取り組む必要がある。

質疑事項

清水委員

今回の取組みでどれくらいの経費がかかり、収支面ではどうだったか。また、地域のニーズにどのように応えられ、また、今回の新たなシステムにより、こういった新しいニーズが出てきたか。

大下主任

経費ですが、実証運行・実態調査を含めて100万程度かかりましたが、今回は全額、国の補助を活用しております。新しいニーズといたしましては、既存の路線バスに乗り換えることなく、福富地区から遠距離にある商業施設への乗入れといったものがあります。

山口市における都市核間幹線交通活性化について

山口県山口市総合政策部 原交通政策課長から「資料4」により報告

【報告概要】

- ・山口市は、平成17年10月に、1市4町が合併して、県庁所在地の「山口」と新幹線駅のある「小郡」の2つの都市核、そして、各町の中心地として人口の集積した3つの地域核があり、多核分散型の都市構造となっている。
- ・山口市においては、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりに向けての政策転換が求められており、その実現に向けた交通政策の指針として、平成18年4月に「市民交通計画」の策定に着手している。
- ・山口と小郡の都市核間を結ぶ基幹交通にはJR山口線と路線バスがほぼ併行する形で運行されているが、各々の課題として、バス路線に対しては、運賃の割高感・渋滞によるダイヤの乱れがあげられ、JRに対しては、ディーゼル運行のため速達性や快適性に対して市民の不満感がある。
- ・山口と小郡を結ぶ都市核間交通の活性化のため平成19年度に「幹線交通活性化対策検討委員会」を設置し次の3点について具体的方策を検討した。
 -) 山口・小郡間における鉄道・バスの総合利用の促進

-) 両都市核間における交通結節点機能の強化
-) 市民の公共交通の利用促進

実証実験内容

平成20年1月に「エコ・モーション山口」として実証実験を実施

-) JR山口線の定期券をお持ちの方に対する定期券と同じ区間のバス運賃半額割引
-) JR山口線からバスへ乗り継いだ場合のバス運賃半額割引
-) マイカーから公共交通への利用転換を宣言した人に対するJR山口線やバス運賃の半額割引

- ・列車からバスへの乗り換え実態調査や、鉄道・バス共通の時刻表を作成した。
- ・相互利用や乗り換えについては、運賃半額割引券を使用しても通常利用経路と比べ運賃の実質的な負担増となることから、利用者が少数にとどまった。
- ・列車からバスへの乗り換え実態調査では、「乗り換え情報の提供不足」に対する声があり、共通時刻表に対するニーズの高さが伺われた。

1月21日を「市民公共交通の日」として市内約7万世帯に配布したパンフレットへのバス運賃の半額券の添付や、パーク&ライド用の無料駐車場の確保による公共交通利用促進の取組み。

- ・当日は、通勤時間帯におけるバス利用者が通常と比べて2.6倍の大幅増。また、通常、幹線道路において420mあった渋滞が全く見られなかった。
- ・今後の展開として、交通事業者や関係機関・市民・行政等で構成する「山口市公共交通委員会」を設置し、山口・小郡の都市核間交通の強化として5つの施策を掲げ実現化に向け、引き続き取り組んでいくこととしました。

-) 公共交通の相互連携による一体的サービスの提供
-) ゾーン制運賃など、利用しやすい運賃の設定
-) わかりやすいバス路線網の確立
-) JR山口線の利便性・快適性の向上
-) 優先レーンなど、公共交通の走行環境の改善

質疑事項

青木委員代理 高山交通政策課長

実証実験で、運賃半額割引券を使用しても運賃の実質的な負担増により、利用者が少数にとどまったとのことですが、何故、負担増になったのか詳しく教えていただけますか。

また、「市民公共交通の日」は毎月設けられるのか、今後の展開について教えてください。

原課長

通常、山口・小郡間でバス・JRの相互乗り換えをされる方は少なく、JR駅につ

いてからは、歩かれる方がほとんどです。そういった中で半額とはいえバスに乗っていただくということで、負担が生じてしまった。

「公共交通の日」につきましては、今年度、イベントや「バスの乗り方教室」等を交えて数回おこなう予定です。

久保委員

「公共交通の日」の取組みにおいて幹線道路の渋滞が解消されたということですが、パーク＆ライドの利用や公共交通への乗り換えによる効果ですか。

原課長

パーク＆ライドの利用については、73台と少なかったのですが、全体としては、市内の交通量を測定したところ3%～7%減少しており、少しの方がマイカーの使用を控えて頂くだけで、渋滞緩和に対してかなりの効果があがった。

河村委員

山口市へマイカーでこられる観光客もかなりおられると思いますが、今回の都市核間交通において、観光客等も視野にいれられているのか。

原課長

今回は、主には地域住民の移動手段についてです。

河村委員

観光客は、公共交通に非常に関心がございますので、観光客向けに時刻表を作成していただいて、公共交通を利用しやすくしていただければと思います。

(3) 広島県交通系ICカード乗車券(PASPY)の導入について

PASPY運営協議会 仮井総務委員会委員長から「資料5」により説明

【報告概要】

全国で導入されている交通系ICカードのひとつで「PASPY」の名前の由来は「パス(PASS=乗車券)」と「ハッピー(HAPPY=幸せ)」及び「スピーディー(SPEEDY)」からなる造語です。

導入までの経緯

- 平成16年1月9日： 広島県バス協会理事会で、広島都市圏共通バスカード(7社)に代わる共通ICカード導入の検討を決定
 - 平成17年7月21日： 「広島都市圏における交通系共通ICカード導入促進検討会」開催
内容、スキームについて協議
 - 平成19年12月26日： 参加事業者による「PASPY運営協議会」設立
 - 平成20年 1月26日： 「PASPY」のサービス開始
 - 平成20年 3月 1日： JR西日本の「ICOCA」での利用サービス開始
- 今後の計画
- 年度別導入計画(広島市内及び広島県内)

平成20年度の実施計画

-) バス 573 両 (平成19年度分とあわせ計1,100両)、広島電鉄電車市内線に導入
 -) 広島県東部の福山地区バスへの本格導入開始
 -) 広島銀行 A T M での料金チャージサービス (全国で交通系としては初)
 -) 定期券の I C カード化
- 平成21年度の実施計画
-) 広島都市圏のバスへの導入完了、広島電鉄電車全線導入完了
 -) 宮島航路の宮島松大汽船、宮島ロープウェイに導入
 -) 瀬戸内海汽船に導入
 -) アストラムラインへの導入

今後の課題

- ・ チャージ箇所の拡大 平成20年度、広島銀行 A T M でのチャージサービスの提携
- ・ I C カードの利用データをどのように活用して、運行へフィードバックさせるか
仕組みづくりが必要
- ・ 中山間地での乗合いタクシー、コミュニティバスとの連携
- ・ 交通系以外の利用、公共交通利用促進につながるサービスとのコラボレーション
の必要性

質疑事項

藤原部会長

I C カードの魅力のひとつとして乗降時間の短縮が考えられますけど、「P A S P Y」の導入により所要時間の短縮、あるいは遅れ時間の減少といった事例がございませうでしょうか。

仮井委員長

導入から3ヶ月ということで、今現在、広島電鉄のバスで「P A S P Y」の利用率が6%程度にとどまっておりますので、今のところ短縮効果の実態調査はできておりませんが、今後、利用率があがれば、短縮効果があらわれると想定されます。一応、事前のテストをおこなった結果、ラッシュ時で5%の運行時間短縮を予想しております。

信太委員

関東圏での I C カードを利用したが、非常に便利であった。事業者だけではなく利用者にとっても非常に便利なこの I C カードをぜひ導入促進をしていただきたい。

(4) 中国地方における観光振興策について

「聖なる島、宮島から発信する日本文化体験事業」

広島県廿日市市環境産業部観光課 内山課長補佐から「資料6」により説明

【報告概要】

宮島町における観光事業の課題

- ・年間来島者のうち、相対的に外国人観光客が少ない（約3％）。また、滞在時間が短い。

解決方法として以下の3点に重点を置き取り組みました。

- ）日本文化体感プログラムの展開
- ）VJC事業など、観光立国政策との連携
- ）海外観光マーケットの拡大に対応した、情報発信の多言語化の取り組み

観光ルネサンス事業としての取り組み

- ・地域主体の着地型観光地づくり
 - ）宮島の伝統工芸「しゃもじ」や銘菓「もみじ饅頭」の手づくり体験サービス
 - ）厳島神社千畳閣での「平家琵琶」・「薩摩琵琶」・「篠笛」の演奏会
 - ）宮島“SAMURAI”プログラムとして、外国人観光客への鎧や白装束衣装の着付け体験
- ・海の魅力・夜の魅力を活用した宮島ならではの魅力のPR
 - ）厳島神社沖の海上で、海水を用いた扇形海上スクリーンで音楽と映像で宮島を紹介
 - ）水中花火大会において外国人用に特別観覧席を設置し、英語版解説書を作成
 - ）チャーター船で宮島を海上から見学し、通訳ガイドにより解説
 - ）宮島古来の祭り「管弦祭」を船上より見学し、通訳ガイドにより解説
- ・外国人観光旅客がひとり歩きできる観光地づくり
 - ）外国人（30名）による1泊2日のモニターツアーを実施
 - ）宮島歴史探索デーとして主要スポットの見学及び茶道又は禅の体験
 - ）神道・仏教の外国語による詳細なパンフレットの作成

外国人観光客からは満足度、魅力度ともに全般的に高い評価が得られた。

- ・今後も効果的な事業の継続実施や、ホームページ・パンフレット等の充実により情報発信の強化、新たな日本文化体験事業の開発等により、外国人観光客が満足できる体制づくりに取り組んでいく。

質疑事項

河村委員

人類の普遍的な価値である世界遺産というところをPRして、原爆ドーム・石見銀山とも連携すれば、泊数・消費金額も増えると思います。広域的に取り組むことが、一番、ひらかれた地域の発展に繋がるし、市場原理にもかなっている。

内山課長補佐

3つの世界遺産で今後、協力できるように、現在協議中です。

世界遺産の価値を最大限PRすることが我々の使命だと感じております。

藤原部会長

中国地方に点在する多様な観光資源の二次的な連携は運輸局の大きな仕事だと思われるので、このフォローアップ部会でも前向きに検討していきたいと思います。

インバウンド、外国人観光客の誘致はこれからの観光において、無くてはならない戦略のひとつだと思います。来ていただいた方に満足して頂くのももちろんですが、これから日本を訪れようとしている人に中国地方をアピールしていく情報発信も大事である。

【議事全体を通して】

藤原部会長

本日、皆様からいただいたご意見を十分に咀嚼いたしまして、事務局としては、今後の交通・観光の取組みに反映させ、このフォローアップ部会の意見を反映したアクションプランへとつなげていただきたいと思います。

また、本日は、広島県東広島市、山口県山口市、PASPY運営協議会、広島県廿日市市様からご報告をいただきましたが、このような先進的取組みが中国地域全体に広がり、さらには連携がとれる形に進んでいくことを期待します。

5 . 閉 会